

宗像・沖ノ島と関連遺産群

世界文化遺産国内暫定一覧表への追加提案書



MUNAKATA
OKINOSHIMA

宗像・沖ノ島と関連遺産群

福岡県・宗像市・福津市

目 次

(1) 提案のコンセプト

- ① 遺産名称・概要 1
- ② 写真（宗像・沖ノ島と関連遺産群） 2
- ③ 図面（位置図：日本・福岡県・遺産周辺） 3

(2) 資産に含まれる文化財

- ① 整理表 5
- ② 構成要素ごとの位置図と写真 7

(3) 保存管理計画

- ① 個別構成要素に係る保存管理計画の概要、
又は策定に向けての検討状況 20
- ② 資産全体の包括的な保存管理計画の概要、
又は策定に向けての検討状況 21
- ③ 資産と一体をなす周辺環境の範囲、それに
係る保全措置の概要又は措置に関する検討状況 21

(4) 世界遺産の登録基準への該当性

- ① 資産の適用種別及び世界文化遺産の登録基準の番号 22
- ② 真実性／完全性の証明 22
- ③ 類似遺産との比較 23

海の正倉院・沖ノ島は、東アジア最大級の祭祀遺跡である。豊かな自然と遺産群が共生し、「神宿る島」として人々の信仰や禁忌は現在まで継承されている。日本固有の神道における崇拜形態の変遷を確認できる国内唯一の遺産である。

ユーラシア大陸の東端に位置し、海を介して独自の文化をはぐくんだ日本は、古来、朝鮮半島や中国大陸との交流によってその基礎が築かれた。

本遺産群は神聖な島として古代において対外交渉に関わる祭祀が行われた沖ノ島、祭祀に関わった胸形(宗像)氏の墓域である津屋崎古墳群、そして信仰を継承している宗像大社から構成される。

沖ノ島の祭祀遺跡から見た世界との交流

沖ノ島においては、4世紀後半から約600年間にわたり連綿と祭祀が行われた。発掘調査の結果から、祭祀の場は、巨岩の上で始まり、岩陰、露天へと時期を追って変遷したことがわかり、23ヶ所の祭祀遺跡が確認されている。その祭祀で供えられた品々には新羅製の金製指輪や透彫を施した馬具、遣隋使及び遣唐使によりもたらされた金銅製龍頭や唐三彩、はるか遠く中東からシルクロードを経て伝来したカットグラス碗片等がある。これらを含む約8万点にのぼる品々はすべて国宝に指定されており、沖ノ島は「海の正倉院」と称されるにふさわしい。

胸形一族と大和王権

この沖ノ島での祭祀に航海技術を提供することで深く関わっていたのが、東アジアとの窓口でもあった宗像地域を拠点として、海人たちを束ねていた胸形氏である。沖ノ島祭祀が開始された4世紀後半は朝鮮半島情勢が極めて緊迫していた時期であり、海上交通路の確保のために大和王権は胸形氏と密接な関係を結んでいた。国宝に指定された馬具・冠等が出土した津屋崎古墳群の中の宮地嶽古墳は7世紀前半の築造で、天武天皇に嫁して高市皇子を生んだ尼子娘の父・胸形君徳善の墓と考えられている。そして8世紀に成立した古事記や日本書紀には、胸形氏が祀った沖津(沖ノ島)・中津(大島)・辺津(田島)の宗像三女神についての記述が見られる。

中世以降の沖ノ島

古代の沖ノ島での国家型祭祀は、遣唐使の廃止を主な要因として終焉を迎える。その後、胸形氏は、中世には宗像郡を掌握する宗像大宮司家として中国大陸、朝鮮半島と交易を行っている。

沖ノ島は玄界灘航行の際の精神的支柱となり、その信仰は絶えることはなかった。中世の御長手(みながて)神事はおよそ400隻の漁船が船団を組んで姫神をお迎えする現在の「みあれ祭」に継承されている。また、沖ノ島周辺を漁場とする漁師たちは島の神聖性を重んじ、近世初頭に至ると上陸前の禊、女人禁制、一木一草たりとも島外に持ち出さないことなどの禁忌が生まれ、これらは今も守られている。

未来へ残す貴重な遺産

沖ノ島は、日本と韓国との間にある玄界灘に位置する周囲4km足らずの無人島である。島の内部は、太古の自然が残る原生林と巨岩群からなり、日ごろは波の音、風の音、鳥の鳴き声のみが静かに流れる別世界である。

沖ノ島における祭祀は、対外交渉の成就や航海の安全を願って、執り行なわれたものであり、島自体が、国内最大級の祭祀遺跡である。また、その祭祀に関わった胸形氏の古墳群も宗像の海岸部などに良好に保存されている。自然崇拜から今日の社殿祭祀に至る過程が純粋な状態で保たれている国内唯一の遺産である。豊かな自然と遺産群が共生し、今もなお、人々の中に信仰が脈々と生き続けている。このような遺産は世界的にみて他に例がない。

(1) 提案のコンセプト②写真

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」



沖ノ島

宗像市・神湊より60 km、大島より49 km、対馬の厳原から75 km。玄界灘に浮かぶ東西約1km、南北約0.5km、周囲約4kmの絶海の孤島。
国指定史跡・天然記念物。

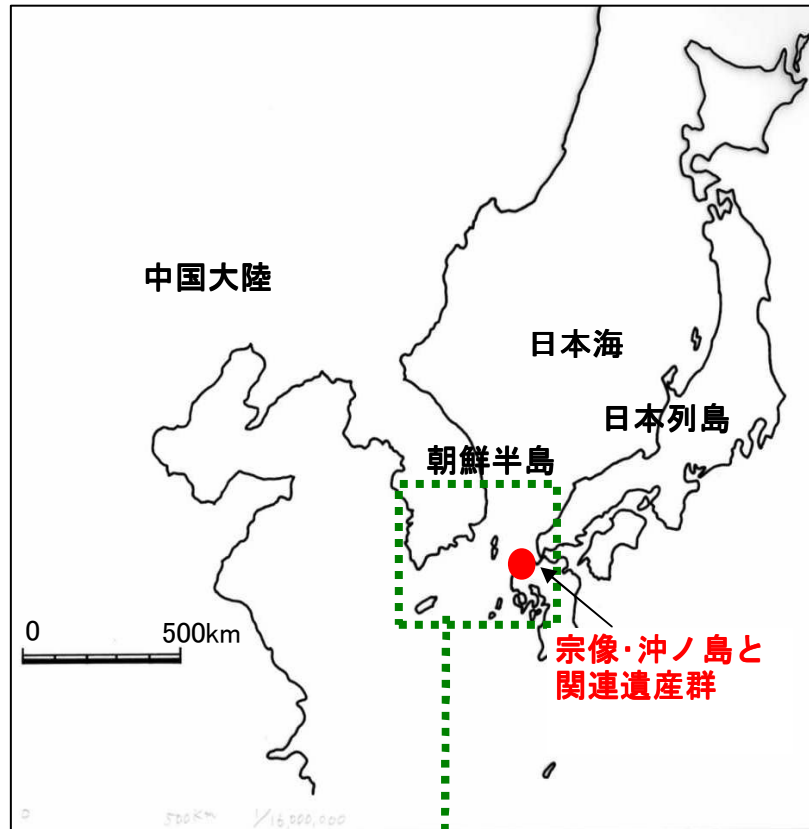


津屋崎古墳群(新原・奴山古墳群)

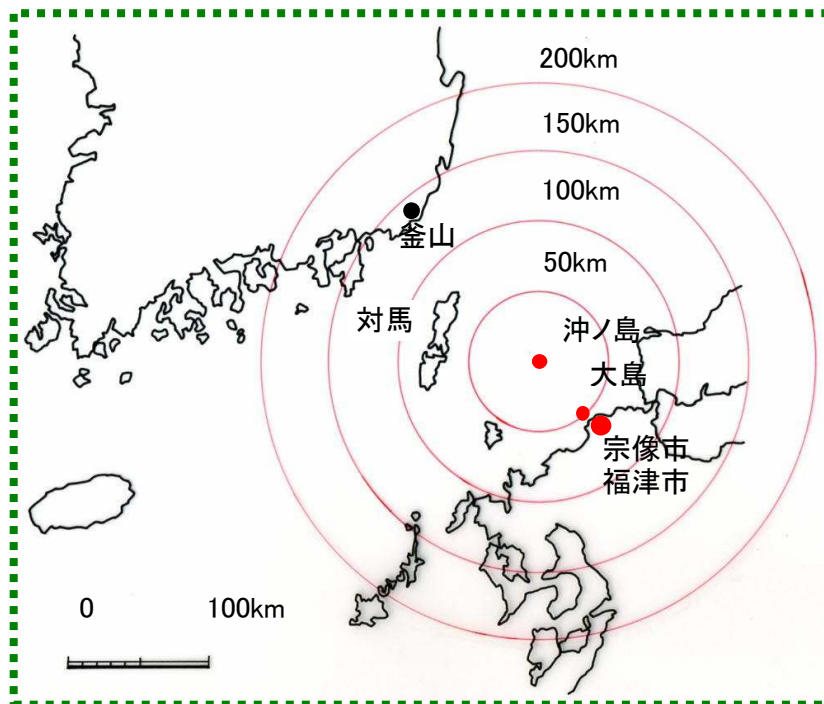
玄界灘を望む台地上に5世紀前半から7世紀前半にかけて連綿と築かれた古墳群。
大和王権と密接な関わりを持つ胸形氏の墳墓群といわれる。国指定史跡。

(1) 提案のコンセプト③位置図

日本における本資産の位置図



拡大図



(1) 提案のコンセプト③位置図

福岡県における本資産の位置と分布図



- 1 沖ノ島
- 2 宗像神社境内
2-1 (沖津宮)
2-2 (中津宮)
2-3 (辺津宮)
- 3 津屋崎古墳群
- 4 桜京古墳
- 5 東郷高塚古墳

(2) 資産に含まれる文化財①

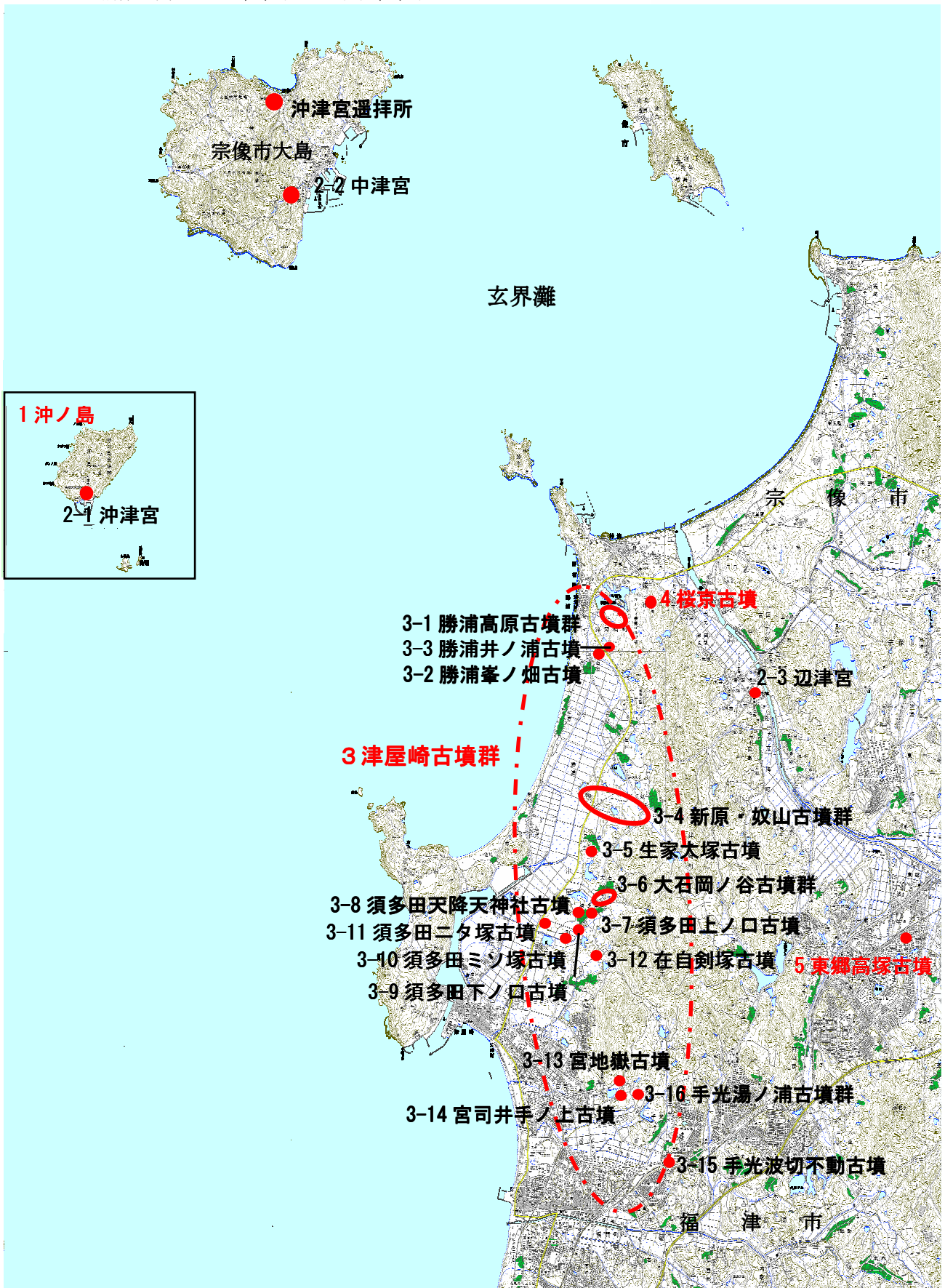
整理表

	名称	保護の主体	保護の種別	面積(㎡)	内容
1	沖ノ島	国指定	史跡 天然記念物	683,763	沖ノ島は、4世紀後半から約600年にわたり、大和王権による国家的な祭祀が執り行われたことを示す遺跡があり、「海の正倉院」と称されるにふさわしい、約8万点の遺物が出土している。また、沖の島原始林は亜熱帯植物の北限地とされ貴重である。
2	宗像神社境内	国指定	史跡	797,826	宗像神社は、沖ノ島の沖津宮、宗像・大島の中津宮、本土の辺津宮の三宮から構成されている。
2-1	沖津宮			683,510	沖津宮は、沖ノ島の祭祀遺跡に鎮座し、祭神は田心姫神である。
2-2	中津宮			9,722	中津宮は、宗像・大島に鎮座し、祭神は湍津姫神である。中津宮本殿は県指定文化財の建造物である。
2-3	辺津宮			104,594	辺津宮は、宗像本土の田島に鎮座し、祭神は、市杵島姫神である。本殿は宗像大宮司氏貞の再建、拝殿は小早川隆景による再建であり、国指定重要文化財の建造物である。
3	津屋崎古墳群	国指定	史跡	111,928	玄界灘にのぞむ台地上に5世紀前半から7世紀前半にかけて連綿と築かれた、北部九州西北岸における代表的な古墳群。沖ノ島祭祀に関わりを持つ胸形氏等の墳墓群である可能性が高く、首長墓の系譜がたどれる点で重要。
3-1	勝浦高原古墳群			5,851	前方後円墳1基と円墳12基からなり、11基が現存している。11号墳は長さ49mの前方後円墳。
3-2	勝浦峯ノ畑古墳			7,721	5世紀中頃に造られた長さ97mの前方後円墳。後円部に古式の横穴式石室があり、石室内は壁面から天井まで赤い顔料が塗られている。中軸線上に2本の石柱が立てられる石室は国内に例が無い構造で、高句麗の双楹塚古墳と似る。
3-3	勝浦井ノ浦古墳			4,464	5世紀中頃に造られた長さ70mの前方後円墳。前方部に堅穴系横口式石室があり、その内部前面に赤い顔料が塗られている。
3-4	新原・奴山古墳群			64,560	津屋崎古墳群の中で最も密集する古墳群。東西約800mの台地上に前方後円墳5基、方墳1基、円墳53基の計59基が発見され、41基が現存する。5世紀前半から6世紀後半にかけて造られたこの古墳群は、前方後円墳・大型円墳とやや小さな円墳に分けられる。
3-5	生家大塚古墳			3,525	前方部の大半を失うが長さ73mの前方後円墳で、周りに溝と堤がめぐらされている。埴輪や須恵器が出土しており、5世紀後半頃の築造。
3-6	大石岡ノ谷古墳群			7,402	2基の前方後円墳で、1号墳は長さ55m、2号墳は長さ43mである。いずれも6世紀後半頃に築造。
3-7	須多田上ノ口古墳			3,267	周りに溝がめぐる長さ43mの前方後円墳。

3-8	須多田天降天神社古墳	未指定		—	長さ80mの前方後円墳で、周りに溝と堤がめぐらされている。高坏形器台・円筒埴輪・形象埴輪などが出土している。6世紀前半頃の築造。
3-9	須多田下ノ口古墳			224	長さ82.8mの前方後円墳で、周りに2重の溝がめぐらされ、須恵器の高坏や甕が出土している。6世紀後半頃の築造。
3-10	須多田ミノ塚古墳			2,337	長さ67mの前方後円墳。須恵器の脚付壺や脚付ハソウなどが出土している。6世紀中頃から後半の築造。
3-11	須多田ニタ塚古墳			6,873	直径33.5mの大型円墳で、周りに2重の溝がめぐらされている。赤い顔料が塗られた横穴式石室は、石の積み方が勝浦峯ノ畑古墳の石室に似る。
3-12	在自剣塚古墳			5,118	津屋崎古墳群中最大規模を誇る前方後円墳で長さは101.7mを測る。須恵器の大甕や高坏形器台が出土している。6世紀後半頃の築造。
3-13	宮地嶽古墳			586	直径34mの円墳。墳丘内部にある横穴式石室は全長23m、最大幅2.8m、天井までの高さ最大3.1mを測る。7世紀前半に造られ、頭椎大刀や馬具、ガラス板などの豪華な副葬品から、天武天皇の第一皇子を生んだ尼子娘の父、胸形君徳善の墓と考えられる。
3-14	宮司井手ノ上古墳	未指定		—	直径26mの円墳。墳頂部から竪穴式石室、箱式石棺、石蓋土壙墓の3つの埋葬施設がみついている。竪穴式石室からは金銅製鈴、ガラス小玉等が、箱式石棺からは人骨とともに短甲、刀剣類、鉄鏃、鉄製農具類などの豊富な副葬品が出土。5世紀前半頃の築造。
3-15	手光波切不動古墳	市指定		—	石室は、宮地嶽古墳の主体部を小型にした横穴式石槨を意識した横穴式石室で、全長10.8mを測る。築造時期は7世紀中頃で津屋崎古墳群の最終期の古墳である。
3-16	手光湯ノ浦古墳群	未指定		—	3基の古墳から構成される。1号墳の主体部は不明であるが、2号墳は竪穴式石室と考えられ、3号墳は竪穴系横口式石室である。いずれも、胸形君の下の在地下首長墓と考えられる。
4	桜京古墳	国指定	史跡	1,250	長さ39mの前方後円墳。第1主体部は複室の石室で玄室に石屋形を有す。石屋形の支柱と奥壁を三角文で区画し、赤・青・黄の彩色を施す装飾古墳。石屋形や装飾は、有明海沿岸地域との関りを見るうえで重要。
5	東郷高塚古墳	未指定	史跡	12,782	長さ64.4mの前方後円墳。主体部に5mを超す西日本最大級の粘土槨割竹形木棺を納める。沖ノ島における国家型祭祀の開始期と同時期に宗像地域内陸部に築造された首長墓である。

(2)資産に含まれる文化財―②

構成要素ごとの位置図と写真<位置図>



(2)資産に含まれる文化財―②

構成要素ごとの位置図と写真<写真>

1 沖ノ島 宗像神社境内 国指定史跡・天然記念物



上空から見る沖ノ島と祭祀遺跡



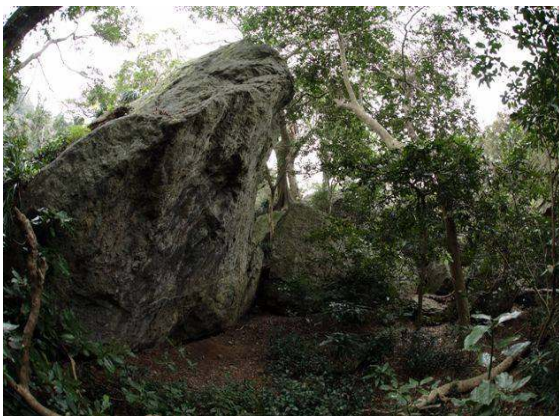
島内に入るときには、必ず裸で禊をして、身を清める。



島周辺は漁民の恵みの海。



漁船の避難港そばの社務所から沖津宮への道。



島の内部は、巨岩と原生林に覆われている。

2-1 沖津宮(本殿・拝殿) 宗像神社境内 国指定史跡



沖津宮本殿・拝殿

本殿・拝殿はあるが沖ノ島全島がご神体である。辺津宮から交代で神職が奉仕する。

(2) 資産に含まれる文化財—②

構成要素ごとの位置図と写真<写真>

1 沖の島 原始林 国指定天然記念物



オオタニワタリ(環境省:絶滅危惧種ⅠB類)
シダ植物の一種で、島内には、対馬暖流の影響により温暖なため、湿潤なところや岩上などに多く着生している。島外では、園芸用の採集や森林伐採などで減少している。



イワレンゲ(環境省:絶滅危惧種ⅠB類)
ベンケイソウ科の多年草で、岩場や藁葺屋根に自生する。島外では古民家の解体などによって減少している。



ヒゼンマユミ(環境省:絶滅危惧種ⅠB)
九州以南の暖地に自生するニシキギ科の常緑高木で、4月から5月に淡緑色の花をつける。島外では道路工事や森林伐採、植生の遷移などで減少している。



カムリウミスズメ(ICUN・環境省:絶滅危惧種Ⅱ類)
暖海域に繁殖する小型の海鳥で、4月から5月にかけて繁殖する。分布域は日本周辺に限られ、ネズミ類による捕食や油汚染などで減少し、個体数は全体で、5000～10000羽程度と見られている。
国指定天然記念物



ヒメクrouミツバメ(環境省:絶滅危惧種Ⅱ類)
全体がすすけた黒色をした小型の海鳥で、沖ノ島では7月から8月にかけて繁殖する。1984年の調査では、沖ノ島に180のつがいを確認していたが、1987年にドブネズミの進入により壊滅的となった。その年にネズミの駆除を行い、2006年8月の調査では、85羽が確認される。

(2) 資産に含まれる文化財—②

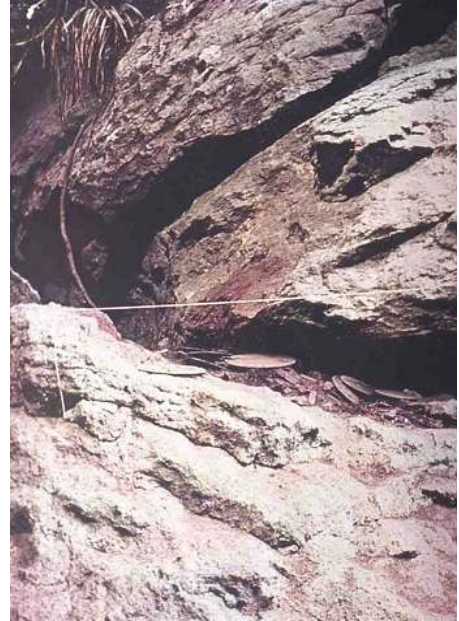
構成要素ごとの位置図と写真<写真>

沖ノ島祭祀遺跡からの出土品 国指定史跡 奉獻品は国宝

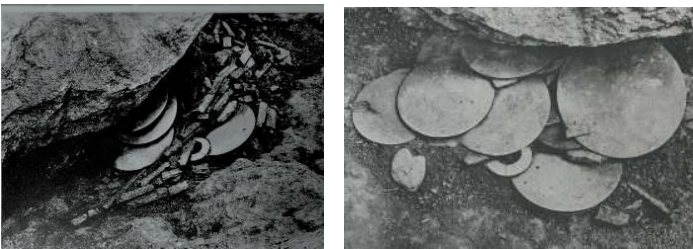
岩上祭祀遺跡(4世紀後半～5世紀)



21号遺跡



17号遺跡



17号遺跡の奉獻品出土状況



石釧 16号遺跡



龍鏡 17号遺跡



半円方形帯画像鏡 17号遺跡



夔鳳鏡 17号遺跡



方格規矩鏡 17号遺跡



三角縁神獸鏡 18号遺跡



内行花文鏡 19号遺跡

(2) 資産に含まれる文化財—②

構成要素ごとの位置図と写真<写真>

沖ノ島祭祀遺跡からの出土品 国指定史跡 奉獻品は国宝

岩陰祭祀遺跡(5世紀後半～7世紀)



7号遺跡



22号遺跡



金製指輪 7号遺跡



カットグラス碗 8号遺跡



金銅製歩揺付雲珠 7号遺跡



金銅製心葉形杏葉 7号遺跡



金銅製帯金具 7号遺跡

(2) 資産に含まれる文化財—②

構成要素ごとの位置図と写真<写真>

沖ノ島祭祀遺跡からの出土品 国指定史跡 奉獻品は国宝

半岩陰・半露天祭祀遺跡(7世紀後半～8世紀前半)



5号遺跡



唐三彩長頸瓶口縁部 5号遺跡



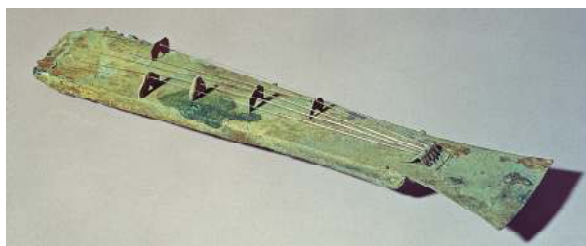
5号遺跡金銅製龍頭出土状況



金銅製龍頭 5号遺跡



5号遺跡金銅製雛形五弦琴出土状況



金銅製雛形五弦琴 5号遺跡



金銅製雛形紡織具 5号遺跡

(2) 資産に含まれる文化財—②

構成要素ごとの位置図と写真<写真>

沖ノ島祭祀遺跡からの出土品 国指定史跡 奉獻品は国宝

露天祭祀遺跡(8世紀～10世紀初頭)



1号遺跡



1号遺跡奉獻品出土状況



1号遺跡奈良三彩小壺出土状況



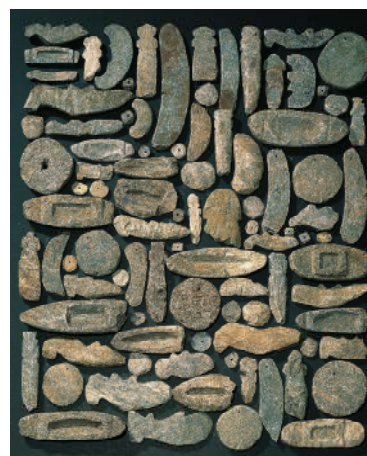
富寿神宝 1号遺跡



奈良三彩小壺 1号遺跡



有孔埴・有孔坏 1号遺跡



滑石製形代類 1号・3号遺跡

(2) 資産に含まれる文化財―②

構成要素ごとの位置図と写真<写真>



大島

宗像郡大島村が平成17年合併で宗像市大島になった。宗像市の神湊から西北へ約10キロ、定期船で約20分。東西3.2キロ、南北1.7キロ、周囲約15キロの島。

2-2 中津宮(大島) 宗像神社境内 国指定史跡



沖津宮遥拝所

大島の北端、岩瀬海岸の近く。沖津宮は日常の参拝が出来ず、又、女人禁制の島でもあり、江戸時代初頭から大島に遥拝する場所が設けられた。空気の澄んだ日は、はるかに沖ノ島を望むことが出来る。



中津宮本殿・拝殿

本殿は辺津宮と同じ流造り、柿葺。永禄九年(1566)造営。平成8年全面解体修理が施された。玄界灘をわが庭として働く漁民はもとより、全国の漁業や海運業者たちの篤い信仰を集めている。



(2) 資産に含まれる文化財—②

構成要素ごとの位置図と写真<写真>

2-3 辺津宮 宗像神社境内 国指定史跡



辺津宮本殿・拝殿(国指定重要文化財)

本殿は天正6年(1578)宗像氏貞により再建。流造り、柿葺。桃山時代初期の建築様式の特徴がよくあらわれている。拝殿天正18年(1590)小早川隆景により再建。切妻妻入造り、柿葺。



第二宮・第三宮

沖津宮、中津宮のそれぞれの神霊をお迎えして祀られている。伊勢神宮の御遷宮古材によって再建された唯一神明造り。



高宮祭場

神籬(ひもろぎ)・磐境(いわさか)というお祀りの原点を今に残す、全国でも数少ない古代祭場。社殿というものがまだなかった古代、磐座(いわくら)に神様をお迎えしてお祀りしていた姿がそのまま残っている。今も昔ながらのお祀りが続けられている。

(2) 資産に含まれる文化財―②

構成要素ごとの位置図と写真<写真>



津屋崎古墳群上空

玄界灘を望む台地上に広がる。5世紀前半から7世紀前半の古墳群。

3 津屋崎古墳群(国指定史跡)



3-2 勝浦峯ノ畑古墳石室

5世紀中頃の前方後円墳。長さ97m。石室は赤い顔料が塗られ2本の石柱がある、国内に例のない構造。



3-4 新原・奴山古墳群

東西約800mの台地上に前方後円墳5基、方墳1基、円墳53基が密集する。5世紀前半から6世紀後半。



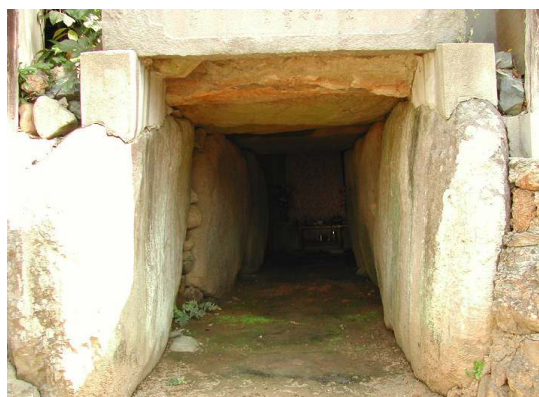
3-11 須多田ニタ塚古墳

直径33.5mの大型円墳。周囲に2重の溝がめぐる。



3-9 須多田下ノ口古墳

6世紀後半の前方後円墳。長さ82.8m。周囲に2重の溝がめぐる。須恵器の高坏や甕が出土。



3-15 手光波切不動古墳石室(市指定史跡)

7世紀中頃、津屋崎古墳群の最終の古墳。宮地嶽古墳の主体部を小型にした横穴式石室。

(2) 資産に含まれる文化財—②

構成要素ごとの位置図と写真<写真>



宮地嶽古墳石室内部

7世紀前半の円墳。直径34m。横穴式石室は全長23m、最大幅2.8m、高さ最大3.1m。天武天皇の第一皇子を産んだ尼子娘の父、胸形君徳善の墓と考えられている。

3-13 宮地嶽古墳 国指定史跡



金銅鏡板付轡



金銅壺鏡



金銅鞍金具残欠

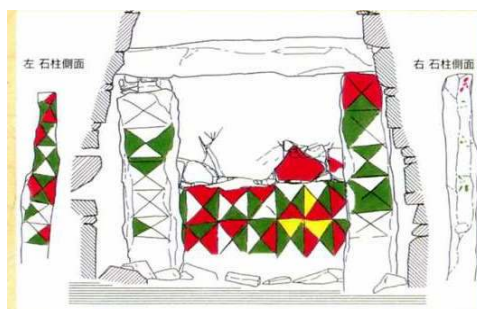


金銅透彫冠残欠

(2)資産に含まれる文化財—②

構成要素ごとの位置図と写真<写真>

4 桜京古墳 国指定史跡



宗像地域唯一の装飾古墳

6世紀後半の前方後円墳。長さ39m。複室の横穴式石室が築かれ、その石室内の石屋形の支柱石及び奥壁には、縦横及び斜めの線刻による連続三角文の区画がされ、それぞれ、赤青黄の三色の顔料で塗り分けられている。

5 東郷高塚古墳



宗像地域最古級の前方後円墳

4世紀後半の築造。宗像の基礎を築いた首長の墓と考えられる。主体部は粘土槨で、上面には赤い顔料が塗られ、中には割竹形木棺が納められていた。

宗像大社の祭り

宗像大社の四季の祭りや行事は地域の人々と深く関わり、「道の神様」として又、精神的な支えとして多くの人の崇拝と信仰をあつめている。



沖津宮現地大祭(5月27日)

明治38年5月27日の「日本海海戦」に因んで、沖ノ島で安全と平和を祈るお祭り。この日だけ一般の人(男性)が褌のうえ、上陸を許される。



みあれ祭(10月1日)

沖津宮の田心姫神、中津宮の湍津姫神をのせた御座船を辺津宮の市杵嶋姫神がお迎えする神迎いの神事。宗像七浦の漁船約400隻が海上神幸する。古くからの御長手神事を復興したもの。



神奈備祭(10月3日)

「みあれ祭」でお迎えした宗像三神に、秋季大祭の無事齊行を感謝して秋季大祭最終日の夜、高宮祭場で行われる。



交通安全祈願



節分祭(2月3日)



中津宮の七夕祭(8月7日)

中津宮の境内に牽牛社と織女社があり、古くから星まつりが行われていた。



七五三祭と菊花祭(11月15日)

(3) 保存管理計画

① 個別構成要素に係る保存管理計画の概要、又は策定に向けての検討状況

1. 沖ノ島

沖ノ島は、史跡「宗像神社境内」の一部であり、文化財保護法により、国の史跡に指定されている。さらに「沖の島原始林」としても国の天然記念物に指定され、最高水準の保護を受けている。また、島全体が、「福岡県環境保全に関する条例」の自然環境保全地域として指定されており、自然環境の保全も行われている。その中で沖の島原始林については宗像市が管理団体となっている。今後も所有者である宗像大社と宗像市の協議の中で保全管理を行っていく。

2. 宗像神社境内

宗像大社は、沖津宮（沖ノ島）・中津宮（宗像・大島）・辺津宮（田島）の三宮からなり、文化財保護法によって国の史跡に指定されている。辺津宮本殿及び拝殿は、文化財保護法により重要文化財の建造物に指定され、中津宮本殿は、福岡県文化財保護条例により県の有形文化財（建造物）に指定されている。今後も所有者である宗像大社と宗像市の協議の中で保全管理を行っていく。

3. 津屋崎古墳群

文化財保護法により、国の史跡に指定され、最高水準の保護を受けている。勝浦峯ノ畑古墳・勝浦井ノ浦古墳は森林法に基づく保安林の一部が指定されている。宮地嶽古墳は自然公園法による国定公園の第2種特別地域に指定され保護されている。手光湯ノ浦古墳群は都市計画区域の市街化調整区域にあたり、手光波切不動古墳は市街化区域で用途地域は第1種住宅地域として管理されている。平成18年度から史跡地の公有化事業を開始しており、今後、未指定の追加案件も含め、文化庁と協議し、県及び市が連携の上、整備・保存・活用計画を策定する。

4. 桜京古墳

文化財保護法により、国の史跡に指定され、最高水準の保護を受けている。平成15・16・17年度において、史跡内容確認のための発掘調査を実施した。今後、文化庁と協議し、調査結果を踏まえ県及び市と連携の上、整備・保存・活用計画を策定する。

5. 東郷高塚古墳

東郷高塚古墳は、都市計画決定された近隣公園として整備され、都市公園法に定められた管理を行っている。また、公園周辺は第1種低層住宅専用地域の制限を受けている。

現在、未指定文化財であるが、国・県・市の史跡指定を行った上で、整備・保存・活用計画を策定する。

② 資産全体の包括的な保存管理計画の概要、又は策定に向けての検討状況

有識者等による検討結果を参考にしながら、県と市が合同で、包括的な保存管理の基本方針、方法、保存管理体制の整備等についてまとめた保存管理計画の策定を検討する。

③ 資産と一体をなす周辺環境の範囲、それに係る保全措置の概要又は措置に関する検討状況

緩衝地帯については、資産を有する市において、文化庁並びに有識者等による意見を参考にしながら、登録資産を保護・保全するために必要な範囲設定を行うとともに、その範囲を対象に景観や環境を保全するための条例制定を積極的に検討する。

(4) 世界遺産の登録基準への該当性

① 資産の適用種別及び世界文化遺産の登録基準の番号

「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は、以下に示す根拠により、世界遺産リスト登録への価値基準 ii) iii) iv) vi) に該当する。

- ii) 倭(日本)が国家の礎を築く上で欠かすことのできなかった、文化、思想、各種技術などを東アジアから取り込む上で、航海は必須であった。畿内中央から東アジアにおける航路の中間地点に位置する宗像の地において、航海の補助や物資調達などを行った古代胸形氏の遺産、航海の無事や対外交渉の成就を願って行われた沖ノ島での祭祀遺跡など、島国日本の宿命ともいえる海を媒体とした交流を示す遺産である。
- iii) 沖ノ島は、通常、人を寄せ付けない絶海の孤島であり、島内に生いしげる原生林や巨岩の転石、少ない平坦地などの、環境下で古代の祭祀は行われた。それは岩上祭祀から岩陰祭祀、半岩陰・半露天祭祀、露天祭祀と4段階の形態から社殿祭祀への変遷をたどることが確認できる唯一の遺産である。そして宗像社として沖津宮・中津宮・辺津宮の三宮で構成され島伝いの広大な神社形態が確立される。
- iv) 沖ノ島は、島内に生いしげる原生林や巨岩の転石、波の音、風の音、鳥のさえずりなど、今も自然の神秘性をかもし出す景観が保たれている。こうした島本来の地形や、通常は人が近づけない手つかずの原始林が残る独特な環境が、自然を崇拝していた原始神道の情景を今に伝えている。日本固有の宗教である神道の発生を示す顕著な見本である。
- vi) 沖ノ島は今日もお神宿る島として、信仰を深め、「女人禁制」「上陸前の禊」「一木一草一石たりとも持ち出してはならない」「不言様(おいわずさま)」などの禁忌が伝統として一部に残る。沖ノ島での半岩陰・半露天祭祀段階では、金銅製の五弦琴や機織具などを使用した祭祀が認められ、伊勢神宮などで行われている今日の祭祀につながる。日本神道における祭祀の変遷と今に続く信仰を示す顕著な普遍的価値を有する。

② 真実性／完全性の証明

真実性については、沖ノ島祭祀遺跡は、昭和29年～昭和46年に3次にわたる発掘調査が実施され、4段階の祭祀形態の変遷を示す遺構が確認され、現在もおその形状が保たれていること、また、関連遺産群としての古墳群は、測量や史跡内容確認調査、文献等によって史跡の構成や年代的な推移などが確認され、考古学的な裏付けがなされていることにより真実性は十分に確保されている。

完全性については、推薦する文化遺産を構成する史跡において、所有者をはじめとする関係者によって適切な維持管理が行われ、資産としての価値を失することなく、良好な状態を保っているが、今後、さらなる調査研究によっては、新資料の追加などが考えられる。

③ 類似遺産との比較

他の世界遺産との比較

本件と類似する世界遺産は、スケリッグ・マイケル島、デロス島、巖島神社が該当する。

スケリッグ・マイケル島は、絶海の孤島に残る石積みの修道院で初期キリスト教時代の貴重な遺産である。デロス島は、国際的な自由貿易港で、異国の神々を祀った神域跡など、往時の賑わいを示す遺構が残る。広島県巖島神社は平安時代の権力者、平清盛ゆかりの建造物で、山、海、建物を一体化し、自然崇拝の精神をあらわした遺産である。

それに対して本遺産は、下表のとおり顕著な遺産である。

遺産名	国名	島としての遺産	航海(対外交渉)に係わる	祭祀の継続	自然崇敬(海への畏怖)	関連施設
沖ノ島と関連遺産群	日本(福岡県)	○	○	○	○	○
スケリッグ・マイケル島	アイルランド	○	×	×	○	○
デロス島	ギリシャ	○	○	×	×	×
巖島神社	日本(広島県)	○	×	○	○	○

その他の類似遺産

世界遺産に登録されていないが海を媒体とした祭祀遺跡として類似するものは、千歳下遺跡、神島、大飛島、竹幕洞祭祀遺跡が該当する。

千歳下遺跡は、舞鶴湾に面した5世紀代の祭祀遺跡。神島や大飛島は、8～10世紀の短期間に祭祀が行われている。また、竹幕洞祭祀遺跡は、韓国の百済地域を中心とした、中国大陸から倭への航海上の重要な位置である、韓国の半島の先端にあり、一貫して露天祭祀の形態である。

遺産名	国名	島としての遺産	航海(対外交渉)に係わる	祭祀の継続	自然崇敬(海への畏怖)	関連施設
千歳下遺跡	日本(京都府)	×	×	×	不明	×
神島	日本(三重県)	○	×	×	○	○
大飛島	日本(岡山県)	○	×	×	○	○
竹幕洞祭祀遺跡	韓国	×	○	○	○	○

世界遺産としての妥当性

- (1) 4世紀後半から約600年間にわたり東アジア世界での対外交渉の成就及び航海の安全を祈願した絶海の孤島における祭祀に関わる遺跡である。
- (2) 沖ノ島祭祀齋行の主体であった胸形氏等の墓域として津屋崎古墳群が良好な状態で残っている。
- (3) 奈良時代以降宗像社として沖津宮・中津宮・辺津宮の三宮で構成される。
- (4) 日本固有の宗教である神道が、自然信仰から社殿祭祀へと変化したことを如実に表している。
- (5) 宗像大社や地元漁師などによって神聖な島として現在も禁忌や掟が守り続けられている。
- (6) その結果、沖ノ島は手付かずの自然が残り貴重な動植物の繁殖地ともなっている。

以上の理由から、このような遺産は国内外を問わずほかに例がない。